

FCT 第16回メディア・リテラシー研修セミナー報告
「ネット時代の子ども・若い人びととともに」

今年の研修セミナーは、2013年8月3日（土）～8月4日（日）の日程で、[とよなか男女共同参画推進センター](#)（大阪府豊中市）の共催を得て、8年ぶりに関西での開催となりました。

FCTでは、この4月に『[最新 Study Guide メディア・リテラシー【入門編】](#)』をリベール出版より刊行し、第6章に「インターネットを読み解く」を新設しました。そこで、メディア・リテラシーを理論に基づいて系統的に学ぶセミナーの中核に、第6章の実践を組み込んでいます。

参加者は大阪、京都、三重県など関西圏を中心に、鳥取、青森県、関東圏など幅広い地域から集まり、その所属も、大学生、教員、研究者、メディア・リテラシーに関心をもつ市民、行政や団体職員、メディア制作者などさまざま、ワークショップ中心のセミナーにおいて、多様なディスカッションの場を構成することができました。

●セミナーの概要

セッション1（S1）ではメディア・リテラシーとは何か、なぜ学ぶのかの講義があり、S2では、子ども時代に接してきたメディアを、家族や社会との関わりの中で捉えなおし、メディアの意識化に向けての作業をしました。

S3では、ポータルサイトの Yahoo! をテキストに使用し、サイトの構成を分析しました。インターネットにおけるオーディエンス／テキスト／生産・制作の三角の関係を確認した後に、テキストをサイトの「言語」別に分類する作業をおこない、全体として、「きまり／約束事」「欠落している要素」「他のサイトへのリンク」「検索エンジンの設置」などについて話し合いをしました。その結果、ニュース項目、サービス情報、広告などが巧みに混ざり合い、さらに、時間の経過とともに変化していくというネット特有の構成の仕方を確認することができました。

S4では、インターネットと広告について、より具体的に分析をしました。グループごとに、パソコンのネット接続によりサイトの運営主体、広告名などを分析シートに記入し、広告の種類／リンク状況／サイトの本文と広告の区別、などについて話し合いました。また、サイトの商業的側面に関しても、広告の配置やリンクの仕方、検索結果を手がかりに分析しています。さらに、サイト上では、クリックすればするほど情報から広告に導かれる構成がみられ、長時間、そのサイトにとどまることにより、多くの広告をオーディエンスが目にするような「流れ」になっていることにも気づきました。

●セミナー2日目には

2日目のS5では、日本の広告費のデータを説明した後に、トヨタの「Reborn」CMをテキストに、映像言語を学びます。映像言語を分析シートに記入し、その言語を使用する意味を考え、話し合いをしました。CMのターゲット・オーディエンスや、価値観の提示についても言及しています。

S6のテレビニュース分析では、参議院選翌日7月22日のニュース番組から、日本テレビ系『NEWS ZERO』の「イチメン！同世代が一票に託した“意思”」をテキストに使用し、若者、子育て世代のみ次々と登場する「街の声」の発言を中心に分析をおこないました。「政策に批判的な発言が取り上げられていない」「投票に行かなかった人の意見がない」「東京のみの取材なのに、東京選挙区の大番狂わせに触れていない」などとい

う参加者からの発表もあり、メディアが「現実」を構成していることを意識化することができました。

最後のS7は、S6に引き続き、選挙翌日の7月22日のポータルサイトのニュース『gooニュース』をテキストに、インターネットが構成する「現実」について学ぶセッションです。分析に先立ち、ネットに接続し、今の新着ニュース項目を政治、経済、スポーツなどに分類し確認しました。その後、テキストのコピーをもとに、ネットの特性である双方向性の実態およびサイト運営者との関わり、さらに、「現実」は誰が、どのように構成しているのかについて話し合いました。ネットのニュースでは提携新聞社、通信社があり、限られた情報が、「再構成」されていて、ニュースを誰がどのように選択しているのかオーディアンスにはわかりにくい仕組みになっています。「ユーザーは多様なニュースを求めている、というサイト運営者の発想によりニュース項目が選択されている」という読み解きもされています。

●参加者からのコメントを一部紹介

- ・ インターネットに関してのセッションは、初めての経験だったので、とてもいろいろと考えさせられました。インターネットは全く使わなくて済む時代、社会ではない以上、きちんと向き合っていかなければならないと痛感しました。
- ・ インターネットを題材にしたメディア・リテラシーは初めてで新鮮でした。テレビ等の他のメディアと共通する部分（視覚）、異なる部分（広告の多さ）が興味深かったです。
- ・ 何度参加しても、メディア・リテラシーの奥深さを感じました…やはり細々とでも、何か実践にふれておくことが大事だと感じました。私自身、中学生と日々過ごしているので、何かの形で授業に取り入れられたらと思いました。
- ・ クリティカルに考えていこうとするとさまざまな発見がありました。これも参加者それぞれの経験知が多様であるからだと思います。…メディア・リテラシーから人権課題を読み解くことは大事だと感じました。人権学習の中身に活かしていきたいです。
- ・ 「クリティカル・シンキング」はあくまで手段の一つであり、それ以外のさまざまな概念こそ重要であるということ学んだことは非常に有益な経験となりました。11月にはメディア・リテラシーをテーマにしたフォーラムを行うので、今後も学び続けていきたいと思います。

●今後の展開として

今回のセミナーは関西エリアでの開催でしたが、メディア・リテラシーを系統立てて学ぶ機会を、より多くの人びとが持てるようにするためにも、来年以降、研修セミナーの地方での開催を検討する必要があるのではないかと考えています。

ファシリテーター：

西村寿子・田島知之・森本洋介・高橋恭子・石村飛生・佐藤淳彦・新開清子（記録）